

かいじょうばんごう	かいじょうめい	じゅけんばんごう	なまえ	フリガナ	□ていせい	せいべつ	せいねんがっぴ
		がくねん・くみ				せいねんがっぴにまちがいがあるときは、 □ていせいにマーク(■)し、ただしせいねんがっぴをかいてください。	
							□ていせい
		ねんくみ					
ご記入いただきました個人情報、当財団の検定にかかわる業務のみに使用します。 (ただし、検定に関わる業務に際し、業務提携会社に作業を委託する場合があります。)							

《問題Ⅰ》もんだいいち つぎの といに こたえなさい。

一 つぎの □ に あう カタカナを () の 中なかから えらび、
かん字じに なおして かきなさい。

(1) あと 十円じゅうえん □ りない。 (オ カ タ)

(2) つかれたから ベンチで □ けいしよう。

(3) ふうせんに □ を 入れる。(テンキ クウキ ゲンキ)
(キュウ テン ゴウ)

二 ○ に あう ひらがなを () の 中なかから えらんで
かきましよう。 □ の よこに かいて ある カタカナを
かん字じに なおして かきましよう。

(1) わたし ○ □カ びんに チューリップ ○ さした。

(2) □セツ けん ○ 手^て ○ よく あらいましよう。〔を は へ〕

(3) ぼくは かいだん ○ 一いっかい ○ □オ りる。〔に が で〕

三 つぎの □ に 入はいる ことばを あとの □ の 中なかから
えらんで かきなさい。

(1) 雨^{あめ}が □ と ふっている。

(2) ほしが □ と かがやく。

(3) ろうそくの 火^ひが □ と ゆれる。

(4) はさみで □ と かみを きる。

ゆらゆら ざあざあ ちよきちよき きらきら

《問題Ⅱ》 つぎの といに こたえなさい。

- 一 つぎの 五つの ことばの 中に 一つだけ なかまに ならない ことばが あります。
その ことばに ○を つけなさい。

- (1) やきゅう すもう けいさん サッカー 水えい
(2) はさみ くすり えんぴつ ノート えのぐ

- 二 つぎの 四つの ことばは なにの なかまでですか。あとの の 中から えらんで
に かきなさい。

- (1) なつ ふゆ あき はる
(2) ソファ 本だない す たんす

いろ きせつ よう日
かぐ 文ぼうぐ

- 三 つぎの ことばと はんたいの いみの ことばを あとの アウの 中から えらんで
きこうに ○を つけなさい。

- (1) おもて ア した イ うしろ ウ うら
(2) ふかい ア あさい イ ひくい ウ ぬるい

- 四 に 入る ことばを あとの アウの 中から えらんで、
きこうで かきなさい。

- (1) おとうさんが えきに 。 (ア とおい イ むかう ウ もどす)
(2) きりんが たべる。 (ア 草げんに イ 水を ウ 草を)

- 五 つぎの に 入る ことばを あとの の 中から えらんで かきなさい。

- (1) ぼくのおとうとは いつも げんきです。 きのうは ねつを
出して 学校に いけませんでした。

- (2) きょうは いもうとの たん生日です。 おかあさんと いっしょに
いもうとの すきな チョコレートケーキを かいに いきました。

だから なぜなら でも つまり たとえば

かいじょうばんごう	かいじょうめい	じゅけんばんごう	なまえ	フリガナ
		がくねん・くみ		
		ねん	くみ	

《問題Ⅲ》もんだいさん 文ぶんししょうを よんで、あとの といに こたえなさい。

雨上あめあがりに 出でる にじは、どんな いろに 見みえますか。日本にほんでは、にじの いろは 七なないろだと いわれます。でも、にじの いろ かずは、くにに よって ちがい、おおい くには 八やっつ、すくない くには 二ふたつだとも いわれます。見みている にじはおなじなのに、いろの かずが ちがうのは、いろを あらわす ことばが ちがうからです。いろを あらわす ことばが すくないと、いろを こまかく わける ことが できないのです。

- 一 この 文ぶんししょうは なにに ついて かかれていますか。つぎの アゝウの 中なかから えらんで きごうに ○を つけなさい。

ア 日本にほんの にじに ついて
イ ほかの くにの にじに ついて
ウ にじの いろに ついて

- 二 くによつて、なにが ちがうのですか。

にじの

- 三 なぜ、くによつて、二の こたえのように ちがうのですか。

から。

《問題Ⅳ》もんだいよん つぎの といに こたえなさい。

- 一

--

 に 入はいる ことばを アゝウの 中なかから えらんで きごうに ○を つけなさい。

(1)

--

 なつ ア あつい イ くらい ウ おもい

(2)

--

 ばら ア しずかな イ きれいな ウ まじめな

- 二 つぎの ことばを ならべかえて、文ぶんをつくりなさい。

(1) チューリップの うえた わたしは きゆうこんを 。

(2) ぼくの つった さかなを たくさんのおとうさんは 。

--

《問題Ⅴ》 つぎの といに こたえなさい。

一 つぎの 文しょうを よんで あとの といに こたえなさい。

ア むかし、ある くに、はたけを たがやす 男が いました。
イ こうして、男は、かんたんに うさぎを 手に 入れる ことが できました。
ウ でも、うさぎが きりかぶに ぶつかる ことは もう ありませんでした。
エ それから、男は はたけを たがやさず、まい日 きりかぶを 見て すごしました。
オ ある日、はたけの 木の きりかぶに うさぎが ぶつかり、しんでしまいました。

(故事成語「守株」あらすじ)

(1) アゝオの 文を ならべかえて、おはなしを つくりなさい。

↓

↓

↓

↓

(2) この おはなしから、どんな ことを 学ぶ ことが できますか。つぎの アゝウの 中から 一つ えらんで きごうに ○を つけなさい。

ア どうぶつを だいに しなければ ならない。
イ できるだけ らくを して 生きる ほうほうを さがすべきだ。
ウ いつまでも おなじ やりかたを していても うまく いくとは かぎらない。

二 つぎの 文の ーの ことばは、どんな きもちを あらわしていますか。アゝウの 中から えらんで、きごうに ○を つけなさい。

(1) ガラスの コップを おとしそうに なって、ひやりと した。

ア かなしい イ こわい ウ がっかり

(2) ちゅうもんした りょうりが なかなか こなくて いらいらする。

ア しんぱいする イ こまっている ウ おこっている

《問題Ⅵ》 絵を 見て、 ーに あてはまる ことばを

アゝオの 中から えらんで ーに きごうで かきなさい。

(1) のまえに おばあさんが すわっています。

おばあさんの (2) の 上で (3) が ねむっています。

おばあさんの よこで (4) が (5) を のんでいます。

ア おじいさん イ ねこ ウ おちや エ ストープ オ ひざ

